文　　化

（文化財、文化関係施設）

１　概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
２　文化財とその保護・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
３　埋蔵文化財の保護・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
４　鴻臚館跡の整備と調査・・・・・・・・・・・・・・・ 57
５　福岡城跡の整備と修復工事・・・・・・・・・・・・・ 57
６　美術館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
７　福岡アジア美術館・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
８　博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
９　埋蔵文化財センター　・・・・・・・・・・・・・・・ 64

文　　化

（文化財、文化関係施設）

1　概要

福岡市は、玄界灘に面し、対馬海峡を挟んで大陸と接し、古くから対外交流の門戸、拠点として発展してきました。このため市内に残る多数の遺跡の中には、日本の稲作農耕の始まりを示す板付遺跡、大宰府の前身とみられる那津官家跡、古代の迎賓館であった鴻臚館跡、蒙古襲来を防いだ元寇防塁など、ほかには見られない遺跡があります。

また古代以来、外交・貿易により発展を遂げてきた博多とその周辺には、奈良時代から江戸時代までの都市の遺構が埋もれ、聖福寺、承天寺、櫛田神社、筥崎宮など古代・中世初期にさかのぼる寺社が多くあります。ユネスコ無形文化遺産に登録された博多祇園山笠も鎌倉時代に始まったと伝えられます。

室町時代後期に博多商人の町として栄えた博多は、江戸時代には福岡藩の城下町福岡と双子都市を形成しました。博多・福岡とその周囲の古くからの漁村・農村には、それぞれに特有の民俗が形成され、現在に至っています。

こうした歴史を背景に、市内には多数の文化財（建造物、美術工芸品、無形文化財、民俗文化財、記念物、埋蔵文化財など）が残され、国・県・市の文化財に指定されたものも多くあります。文化財は国民共有の財産として、将来に守り伝えられるべきものであり、その調査、保存、整備を積極的に進めるとともに、文化財保護思想の普及にも努めています。

文化事業としては、博物館が歴史資料、民俗資料、古美術資料、考古資料の収集保管と研究に基づき、展示や講座等の普及活動を進め、美術館は美術文化の振興を図るため、美術品の収集と研究、展示活動などを行い、福岡アジア美術館は、アジアの近現代美術作品の系統的な収集、展示やアジアの美術作家等との交流事業を行っています。

2　文化財とその保護

福岡市周辺は、地理的条件から古代日本における最先進地域として、また、文化の発祥地として位置付けられています。このため、豊富な文化財が残されており、これらの貴重な文化財の保存整備を図っています。さらに、計画的に文化財の保存・活用を進めるため、平成31年３月には、福岡市の文化財の総合的な保存活用の方向性を取りまとめた、『福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針』を策定しました。また、同年４月に施行された改正文化財保護法では、市町村の文化財保存活用地域計画作成及び国による認定が位置付けられました。福岡市では令和２年度から計画の作成に着手し、令和４年７月に認定されました。

(1)　文化財保存整備・活用事業

① 金隈（かねのくま）遺跡（昭和47年国指定史跡）

福岡平野東側の丘陵にある弥生時代の共同墓地跡で、甕棺墓348基、土壙墓119基などが発見されました。棺内からはゴホウラ製貝輪や石剣などとともに残存状態の良い弥生人骨が多数出土しました。北部九州独自の墓制である甕棺墓の変遷、社会構成、また人種の問題など弥生時代研究に重要な意義を持っています。現在遺跡は整備され、ガイダンス施設「甕棺展示館」では125基の甕棺・土壙墓と人骨が、出土したままの状態で見学できます。

② 野方（のかた）遺跡（昭和50年国指定史跡）

早良平野西側の山麓にある弥生時代後期から古墳時代にかけての環濠集落と墓地跡。調査された地区だけで93 棟の竪穴住居跡が発見されており、当時の社会を考える上で極めて重要な遺跡の一つです。平成３年度に整備を終え、環濠を復元しています。またガイダンス施設「住居跡展示館」では、発掘調査時の状態のままで竪穴住居跡を展示しています。

③ 板付（いたづけ）遺跡（昭和51年国指定史跡）

福岡平野の中央に位置する弥生時代初頭の集落・墓地・水田跡。台地上の集落は二重の環濠に囲まれ、その周りの低地では水田が営まれていました。弥生文化形成における農耕村落の一典型を示す極めて貴重な遺跡といえます。平成７年度に整備を終え、環濠・竪穴住居・水田など当時のムラを完全な形で復元しています。ガイダンス施設「板付遺跡弥生館」では当時の生活が体感できる展示を行い、また土器作りなどの公開講座、田植えや稲刈りなどを通して「日本最古の米作りのムラ」の再現に努めています。

④ 吉武高木（よしたけたかぎ）遺跡（平成５年国指定史跡）

早良平野西側山麓に位置し、弥生時代中期初頭の特定集団墓や中期後半の大型建物の存在などから、弥生時代における「クニ」の成立と展開を知るうえで重要な遺跡として知られています。平成29年４月に国史跡吉武高木遺跡「やよいの風公園」として開園しました。開園後の公園では、「コスモスまつり」等のイベントを開催しています。

⑤ 福岡市赤煉瓦文化館（ふくおかしあかれんがぶんかかん）（昭和44年国指定重要文化財）

国指定重要文化財「旧日本生命保険株式会社九州支店」を保存整備し、貸会議室や文化財関連の展示を設けて、市民の文化交流の場として活用しています。令和元

年８月には施設のさらなる有効活用を図るためにエンジニアカフェなどを設置しました。

(2) 無形文化財・無形民俗文化財の公開事業

無形文化財や無形民俗文化財の公開事業に補助金の交付を行い助成しています。（令和７年度実績）

① 無形文化財

一朝軒伝法竹、玄清法流盲僧琵琶

② 無形民俗文化財

今津人形芝居、飯盛神社のかゆ占、はやま行事、今宿青木獅子舞、元岡獅子舞、元岡祇園ばやし、宇田川原豊年獅子舞、能古島白髭神社おくんち行事、飯盛神社流鏑馬行事、草場の盆綱引き、田隈の盆押し・盆綱引き、田島神楽、城の原の盆踊り、金隈の鳶の水、今津十一日まつり、今宿上町天満宮鬼すべ行事、唐原の祇園山笠行事、筥崎宮神幸行事、筥崎宮玉せせり行事

(3) 文化財資料調査

① 福岡市内寺社資料調査

市内所在の寺社収蔵文化財の所在把握と保存環境の改善、今後の保存活用を目的として、美術工芸品・典籍・古文書等を対象とする総合調査を実施しています。令和７年度は香椎宮及び志賀海神社の収蔵資料の調査を行い、『香椎宮資料』（福岡市文化財叢書第十集）を刊行しました。

(4) 市内の指定文化財

（令和８年４月１日現在）

区分		国指定		県指定		市指定		合計	
		件数	員数	件数	員数	件数	員数	件数	員数
有形文化財	建造物	(0) 9	9	11	11	16	16	36	36
	絵画	(0) 13	18	6	27	18	45	37	90
	彫刻	(0) 11	32	13	17	20	40	44	89
	工芸品	(3) 20	22	15	22	21	21	56	65
	書跡・典籍・古文書	(1) 13	813	6	47	32	1,453	51	2,313
	考古資料	(1) 10	2,792	16	37	57	1,226	83	4,055
	歴史資料	(0) 0	0	2	4,806	6	273	8	5,079
	小計	(5) 76	3,686	69	4,967	170	3,074	315	11,727
無形文化財		(0) 1	1	7	11	2	2	10	14
民俗文化財	有形	(0) 0	0	17	128	14	246	31	374
	無形	(0) 2	2	7	7	23	23	32	32
	小計	(0) 2	2	24	135	37	269	63	406
記念物	史跡	(0) 14	20	5	5	14	20	33	45
	名勝	(0) 0	0	0	0	2	2	2	2
	天然記念物	(0) 2	2	3	3	4	865	9	870
	小計	(0) 16	22	8	8	20	887	44	917
合計		(5) 95	3,711	108	5,121	229	4,232	432	13,064

() 内は国宝（国指定の内数）

(5) 市内の登録文化財

（令和８年４月１日現在）

区分		国登録	市登録	合計
有形文化財	建造物	66	21	87
	絵画	0	0	0
	彫刻	0	0	0
	工芸品	0	0	0
	書跡・典籍・古文書	0	0	0
	考古資料	0	0	0
	歴史資料	0	0	0
	小計	66	21	87
民俗文化財	有形	0	0	0
	無形	0	24	24
	小計	0	24	24
登録記念物	史跡	0	0	0
	名勝	1	0	1
	天然記念物	0	0	0
	小計	1	0	1
合計		67	45	112

3 埋蔵文化財の保護

福岡市は大陸に近く、古来、先進文化受容の窓口として、我が国の歴史上重要な位置を占めてきました。このような歴史的役割を背景に、市域内には約 1,000 か所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が存在し、貴重な資料を提供しています。

これらの埋蔵文化財は国民共有の財産であり、将来的にわたって守り伝えていくことが文化財保護の理念であり、行政の責務です。福岡市では以下の事業を行っています。

(1) 各種事業に係る事前審査

公共事業、民間事業に伴う事前の届出・通知を受け付け、事業地内における埋蔵文化財の有無を文化財分布地図、現地踏査、試掘調査等によって確認しています。

令和７年度の事前審査件数は公共事業 178 件、民間事業 1,217 件、計 1,395 件と、前年度比で約５％増加しています。窓口、ＦＡＸ、メールによる包蔵地の照会件数は 3,907 件と、インターネット「福岡市 Web まっぷ」への包蔵地地図公開により、前年度比で約 45％減少しています。試掘件数は公共１件、民間 333 件、計 334 件と、前年度比で約 26％増加しています。

(2) 緊急発掘調査

土木工事などによってやむを得ず破壊される遺跡については、工事に先立って発掘調査を行い、記録保存の措置を講じています。

令和７年度には下記の 21 遺跡で 56 件の緊急発掘調査を行いました。

有田遺跡群(276～279 次)、飯倉Ｄ遺跡（４～６次)、

飯氏遺跡（14 次）、井尻Ｂ遺跡（62～64 次）、
井相田Ａ遺跡（５・６次）、今津Ｃ遺跡（３次）、
雑餉隈遺跡（24 次）、洲崎台場跡（１次）、
住吉神社遺跡（５次）、田村遺跡（35 次）、
那珂遺跡群（201～207 次）、野方平原遺跡（４次）、
博多遺跡群（265～279 次）、箱崎遺跡（133～135 次）、
原遺跡（40 次）、比恵遺跡群（163 次）、
福岡城下町遺跡（12～14 次）、南八幡遺跡（30 次）、
麦野Ａ遺跡（40～42 次）、姪浜遺跡（９次）、
吉塚遺跡（22・23 次）

上記の中で特筆すべきものとして、以下のものが挙げられます。

博多区の井相田Ａ遺跡６次調査では弥生時代中期から後期にかけて 27 基の甕棺墓が出土しました。中期中葉の甕棺墓群は同じ向きに列状に埋葬される「列埋葬墓地」で、北部九州の弥生時代中期の代表的な埋葬方法を採用しています。

(3) 資料整理

発掘調査を実施して得られた図面・写真などの各種記録類、出土遺物は整理・図化・編集などの作業を経て、発掘調査報告書として公刊されます。令和７年度は巻末の一覧の通り、報告書 28 冊、年報１冊を刊行しました。これらの報告書は関係各機関や図書館などに配布し、市民や研究者の閲覧に供しています。整理した記録・資料類は埋蔵文化財センターに収蔵保管し、調査研究や公開普及に活用しています。

(4) 周知と普及活動

調査成果を広く市民に知っていただくため、現地説明会やホームページによる告知などを行っています。

4　鴻臚館跡の整備と調査

(1) 整備

平成 31 年３月に、整備の具体的な内容やスケジュールを示す「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」を策定しました。令和７年度は、鴻臚館東門等の復元にかかる工事に着手しました。

(2) 調査

平成 11～17 年度の第Ⅳ期調査により、東西方向の堀を隔てて南北に鴻臚館の施設が存在したことなどが判明し、平成 18～25 年度の第Ⅴ期調査では、平和台野球場跡地北側部分において、北館の北側の旧地形などを確認しました。令和元年度～４年度まで第Ⅵ期調査として、福岡高等裁判所跡地の調査を行いました。

(3) 公開事業

① 鴻臚館跡展示館

展示館では、平安時代の遺構と遺物を調査が終了したままの状態で見学でき、また当時の建物の大きさや様式を実感しながら理解できるように原寸大の建物模型を展示しています。館外は芝生広場として整備し、奈良時代から平安時代の鴻臚館の施設の移り変わりをわかりやすく平面的に表示しています。

② 展示館の入館者

令和７年度の入館者は、34,411 人となっています。

③ 鴻臚館広場

鴻臚館広場では「遺構表示」などの暫定的な整備を行っています。これによって鴻臚館跡の建物の大きさを実感してもらうとともに、市民の憩いの場や各種イベントの会場としての利用を促進し、鴻臚館跡への理解と愛着の醸成を図っていきます。

5　福岡城跡の整備と修復工事

(1) 整備

福岡城跡の整備については、平成 17 年度に今後の整備の理念と方向性を定めた「福岡城跡保存整備基本構想」を策定しました。

平成 24 年度から「国史跡福岡城跡整備基本計画」の策定作業に着手し、平成 26 年６月に策定しました。令和６年度に潮見櫓を復元し、公開しています。

(2) 調査

令和７年度は、歴史的景観の創出によりさらなる集客・魅力向上を図るため、鉄物櫓石垣の調査および解体修理等を実施しました。

また、福岡城のかつての状況を確認するため福岡城天守台の発掘調査等を実施しました。

６　美術館



○所在地	中央区大濠公園１番６号
○建物構造	鉄筋コンクリート造２階建
○延床面積	14,630 ㎡
○設置年月日	昭和 54 年 11 月３日 平成 31 年３月 21 日リニューアルオープン
○主要施設	コレクション展示室(近現代美術室 A･B･C、古美術企画展示室、松永記念館室、東光院仏教美術室)、特別展示室、ギャラリーA･B･C･D･E･F ほか

福岡市美術館は、福岡市の美術文化の振興を図るため、水と緑豊かな市民の憩いの場、大濠公園内に、昭和 54 年 11 月３日に開館し、今日まで多くの市民に親しまれています。

(1) 基本性格

① 文化生活を豊かにはぐくみ、市民に愛される美術館
② 美術センターとして内外の情報サービスを行う美術館
③ 歴史と伝統を生かし、新しい未来を育てる美術館

(2) 事業概要

① 美術作品その他の美術資料の収集展示
② コレクション展示、特別展示、講演会等の開催
③ 特別展示室、ギャラリー、ミュージアムホール等の貸与
④ 内外の美術情報資料の収集と提供
⑤ 美術に関する調査及び研究
⑥ 教育普及事業
スクールツアー、ファミリーDAY、夏休みこども美術館、つきなみ講座、その他講座・講演会、博物館実習、ボランティア活動

【美術資料収集方針】
○ 近代の西日本出身者や関係の深い作家の作品
○ 近現代美術の流れを展望できる国内外の優れた作品
○ 西日本に関係の深い近世以前の作品
○ 寄贈された一括コレクションに深いかかわりのある作品
○ アジア美術(東洋美術)の独自性を示す古代からの(近代以降を除く)優れた作品

(3) 施設内容

① コレクション展示室
○ 近現代美術室 A･B･C
20 世紀以降の国内外の近現代美術の流れを展望できるすぐれた作品を系統的に展示
ラファエル・コラン 「海辺にて」
サルヴァドール・ダリ「ポルト・リガトの聖母」
アンディ・ウォーホル 「エルヴィス」
マルク・シャガール 「空飛ぶアトラージュ」
ジョアン・ミロ 「ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子」 ほか
○ 古美術企画展示室
古美術の小企画展や旧福岡藩主黒田家に代々伝承された絵画・工芸をはじめとした寄贈コレクションを中心に、日本・東洋の古美術作品を展示
○ 松永記念館室
小田原の(財)松永記念館から寄贈された故松永安左エ門氏のコレクションで重要文化財を含む茶道具、仏教美術を中心に展示
重要文化財 野々村仁清「色絵吉野山図茶壷」
重要文化財 尾形乾山「花籠図」 ほか
○ 東光院仏教美術室
東光院旧蔵の重要文化財「薬師如来立像」および「十二神将像」を中心に、同寺の仏教美術資料を常時展示
② 特別展示室
美術館主催の特別企画展のほか、巡回展などを開催
③ ギャラリーA･B･C･D･E･F
市民の創作活動の発表の場として個展やグループ展などを開催
④ ミュージアムホール
講演会や講座のほか、上映会や演劇、コンサートの会場として利用
⑤ アートスタジオ
ワークショップや講演会、ダンス、パフォーマンスなどの場として利用
⑥ レクチャールーム
小規模な講演会や講座、ワークショップに利用
⑦ その他
キッズスペース、カフェ、レストラン、ミュージアムショップ

(4) 入館者の状況

○展覧会

（令和７年度）

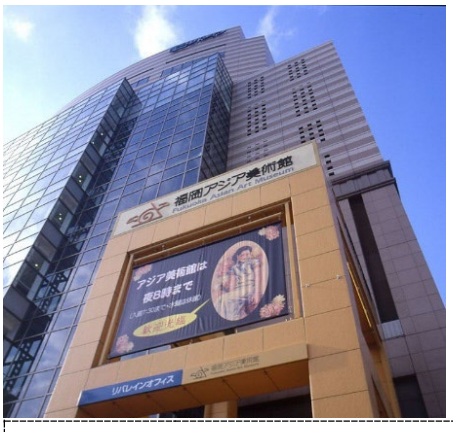
展覧会名			会期等	観覧者数/人
主催事業	コレクション展示		通年	265,067
	特別展示	珠玉の近代絵画「南国」を描く	令和７年10月11日 ～令和７年11月24日	11,146
		古代エジプト展	令和７年12月13日 ～令和８年３月８日	78,845
		第57回福岡市美術展	令和８年３月24日 ～令和８年３月29日	4,884
		計		94,875
その他の貸会場展覧会			152件	350,071
合計				710,013

○講座等

（令和７年度）

講座名		実施日数/日	参加者延人数/人
主催事業	ファミリーDAY	2	2,161
	つきなみ講座	12	583
	どこでも美術館	26	1,237
	夏休みこども美術2025「描いてみよう！音楽のせん いろ かたち」	1	22
	夏休みこども美術館2025「みてみて つくって 音楽会」	1	62
	バリアフリーギャラリーツアー	3	29
	やさしい日本語ツアー	1	19
	いきヨウヨウ講座「アートとヨガで心と体をすこやかに～ミュージアム・ヨガ」	1	19
合計		47	4,132

7　福岡アジア美術館



○所在地	福岡市博多区下川端町３番１号 リバレインセンタービル７・８階
○建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
○延床面積	9,101 ㎡
○開館年月日	平成 11 年３月６日
○主要施設	アジアギャラリー、企画ギャラリー、交流ギャラリー、交流スタジオ、あじびホール、アートカフェ、エントランス壁画、図書閲覧室等

アジア美術の独自の創造を目指し、アジア近現代美術を通じて人々が集い、互いに理解し、創造、発信する、アジア美術の国際的な交流の場として開館しました。

(1) 基本性格

世界的に類をみないアジア近現代美術作品のコレクションを生かした展示のみならず、日常的なアジアとの交流、調査研究活動を積極的に展開します。また、アジアの美術作家や研究者等と日本・福岡の美術作家、研究者、市民が互いに創り、学びあうことにより、新たな創造と相互理解を促す機会を提供します。

(2) 事業概要

① 美術交流

アジアの美術作家や研究者を招へいし、市民との共同創作、研究、ワークショップ、講座等を行う美術交流事業。

令和７年度は、３期７組の美術作家（モハメド・ファズレ・ラッビ・フォティック／バングラデシュ、ウィリー・サイウッド／ラオス、馬場さおり／福岡、進藤冬華／北海道、小田原ルーカス／ブラジル、アルピタ・アカンダ／インド、チェン・イェンチー／台湾）を招へいし、作品制作及びワークショップを行いました。

令和８年度は、３期９組の美術作家（ハン・ハン／ベトナム、アムシャド・スヌワール／ネパール、イアン・ティー／シンガポール、ジャン・マヨ／フィリピン、チョン・ユギョン／福岡、シエ・ヨウチョン／台湾、マハラニ・マンチャナガラ／インドネシア、ヌラフマット・ウィディヤセナ／インドネシアほか）を招へいします。

② 展示

ア　企画展示

独自の視点で企画した特別展を開催し、アジアの近現代美術を紹介します。

イ　コレクション展示

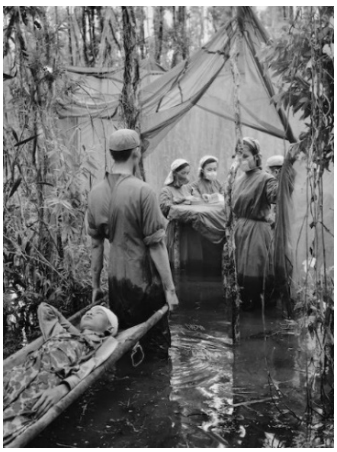
収蔵品を展示し、アジア近現代美術の流れを示すほか、ジャンル別やテーマ別にアジア美術を紹介します。

③ 収集

美術作品、その他美術資料の収集

方針：アジア美術の独自性を示す優れた作品を収集

対象範囲地域：パキスタン以東、モンゴル以南、インドネシア以北・以西



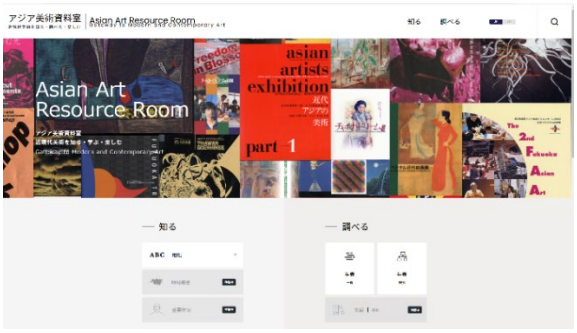
ヴォー・アン・カイン（ベトナム）
《軍移動診療所 1970 年 9 月》1970/2010 年

④ 教育普及

ア　講演会・シンポジウム等の開催

イ　美術教育プログラムの実施

ウ　美術をはじめとするアジアの文化に関する情報の収集と提供



アジアの近現代美術を学ぶウェブサイト
「アジア美術資料室」（日／英）

エ　令和６年度より、福岡市博物館、福岡市美術館と連携して「対話型アート鑑賞」事業を実施し、小学生を対象とした図工の鑑賞学習を行っています。

(3) 施設内容

① アジアギャラリー

アジア近現代美術の流れを系統的に展示し、また、ジャンルやテーマ別にアジア美術作品を紹介するコレクション展を開催します。

② 企画ギャラリー

アジア美術のほか、幅広い分野の特別企画展を主催・共催します。

③ 交流ギャラリー

アジアの美術作家が福岡滞在中に創作した美術作品の展示や、市民に創作活動の発表の機会を提供します。

④ 交流スタジオ

アジアの美術作家の滞在制作や市民向けワークショップを実施します。

⑤ あじびホール

美術交流事業や展覧会にあわせて、美術教育プログラム、講演会やシンポジウム等を開催します。また、ミニコンサートや小演劇、上映会など、文化・芸術活動を楽しむ機会を提供します。

⑥ アートカフェ

アジアの美術、文化、歴史などの書籍約 10,000 冊が置かれており、食事や休憩とともに自由に読書が楽しめます。

⑦ エントランス壁画

１階エントランスでは、中国の人気アーティストのブー・ホァによる約４ｍ×11ｍの壁画が来館者を迎えます。

⑧ その他

図書閲覧室、ミュージアムショップなどがあります。

(4) 特別企画展

① おいでよ！夏の美術館 vol.３　大どろぼうの家

会期　令和８年７月９日～令和８年８月 30 日

② アジア美術の歩き方 南アジア特別編 対立の先へ～光の水脈をめぐる旅

会期　令和８年９月 19 日～令和９年１月 11 日

(5) 入館者の状況

（令和７年度※12 月から３月は休館）

展覧会名			会期	観覧者数
主催事業	コレクション展		通年	45,455人
	特別企画展	おいでよ！夏の美術館vol.２「オバケ？」展	R７.７.10～R７.８.31	41,157人
		ベトナム、記憶の風景	R７.９.13～R７.11.９	6,262人
その他の貸会場展覧会			39件	55,012人
あじびホール利用			75件	5,484人
アートカフェ来訪者				99,654人
施設利用者合計				253,024人

８　博物館



○所在地	早良区百道浜三丁目１番１号
○敷地面積	50,648.80 ㎡
○延床面積	23,889.98 ㎡
○建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造３階建
○開館	平成２年 10 月 18 日
○種別	歴史民俗博物館
○主要施設	常設展示室、企画展示室、 特別展示室、講堂、 講座室、体験学習室、授乳室、多目的研修室、オープンテラス、読書室

福岡市博物館は、福岡が古くから大陸との交流拠点として重要な役割を果たしてきたことを踏まえ、対外交流の歴史を基本テーマに、郷土の貴重な文化遺産を保存、継承するとともに、新たな市民文化の創造に寄与することを目的としています。

(1) 基本性格

① 先人の残した文化遺産を保存、継承し、東アジアにおける福岡の歴史と民俗を学ぶ博物館
② 文化遺産を通して市民とのコミュニケーションをすすめ、新しい市民文化を育む博物館
③ 調査研究機能とともに高度の情報サービス機能をもち、市民の生涯学習の場としての博物館

(2) 事業内容

① 博物館資料の収集と展示
② 博物館資料に関する調査研究
③ 博物館資料に関する企画展、講演会等の開催
④ 博物館資料に関する情報の収集と提供
⑤ その他必要な事業

(3) 博物館資料の収集

博物館の諸事業を効果的に行うため、昭和 58 年度から福岡の歴史と民俗に関係の深い資料の収集を積極的に行ってきました。令和８年３月末現在の収集資料は、累計で 210,023 件になります。

(4) 施設内容

① 常設展示室

平成 25 年 11 月３日、「FUKUOKA　アジアに生きた都市と人びと」をテーマにリニューアルオープン。福岡の歴史や人びとのくらしを独自の時代区分で紹介。また、すべての人にやさしく使い勝手の良い施設を目指し「ユニバーサル・ミュージアム」の理念を掲げ、体感型の展示方法も取り入れています。

② 企画展示室

４つの展示室に分かれており、博物館の収蔵品を中心に、歴史、美術工芸、考古、民俗の各部門の展示を定期的に行い、主に福岡市内及び近郊の様々な資料や文化財を、テーマを決めて紹介しています。

③ 特別展示室

博物館主催の自主企画展や、各種実行委員会等の主催による特別展を順次開催します。

④ 体験学習室「みたいけんラボ」

アジアの遊戯をテーマとして、アジア各国の芸能・玩具資料に直接触れることにより、アジアの人々の生活や文化を疑似体験できるようにしています。

⑤ 講堂・講座室

博物館や各種団体等の主催により、歴史・民俗に関する講演会、各種講座を開催します。



国宝　金印「漢委奴国王」

(5) 特別展示室

・魔法の歴史スコープ～見つめてみよう福岡の今～
　会期　令和８年２月 21 日～令和８年４月 12 日
・大恐竜展～「フクイ」から探る獣脚類の進化～
　会期　令和８年４月 24 日～令和８年６月 28 日
・福岡市博物館収蔵　幽霊・妖怪画コレクション
　会期　令和８年７月 19 日～令和８年９月 13 日
・1999 展－存在しないあの日の記憶－
　会期　令和８年 10 月 10 日～令和９年１月 11 日

(6) 企画展示室

室	展 覧 会 名 称	会　期
1・2・4	花爛漫の江戸時代	2/3～4/19
3	勾玉展	2/3～4/19
1～4	第 38 回新収蔵品展 ふくおかの歴史とくらし	4/22～6/14
1	博多祇園山笠展 25	6/18～8/16
4	戦争とわたしたちのくらし	6/18～8/16
1	黒田家の名宝４	8/18～4/25
4	福岡市無形民俗文化財・福岡県有形民俗文化財追加指定記念 大濱流灌頂と大燈籠絵	8/18～10/18
4	古文書と記録で見る福岡藩政史８	10/20～1/11
4	館蔵考古資料展	1/13～4/18

(7) 講演会・講座等

総館長の歴史講座「楽史の集い」
　５月 23 日　文書のなかの豊臣兄弟
　７月 25 日　「幽霊・妖怪画コレクション」によせて
　９月 26 日　黒田長政

(8) 子どもを対象とした事業

みんなのミュージアム
　８月５日、６日（ねんどでつくろう　みんなの百鬼夜行）
　12月19日（古代の機織りを体験しよう！）
　３月27日（金印の使われ方を知ろう！）

(9) 学習事業

① 博物館体験学習事業
　市立中学校、特別支援学校（中等部）の生徒、市立小学校の児童を対象に博物館で体験学習を実施します。
　小・中学校・特別支援学校実施予定数５回（361 人）

② 出前学習事業
　市立小学校、特別支援学校（小学部）の児童を対象に、博物館から講師を派遣し、出前学習を実施します。
　４メニュー　実施予定数　103 回（9,101 人）

③ 対話型鑑賞
　福岡市美術館、福岡アジア美術館と連携し、市内の小学校・特別支援学校（小学部）が校外学習で利用できる「対話型鑑賞」事業を実施します。
　実施予定数　40 回（3,324 人）

(10) 福岡市史の編さん事業

　市民の郷土に対する誇りと愛着を醸成するとともに、重要な歴史資（史）料を市民の財産として後世に継承するため、総合的で体系化された「福岡市史」を編さんし、福岡市発展の指針とします。

① 『新修 福岡市史』の制作
② 編集委員会・専門部会等の開催、資(史)料調査・収集整理
③ 講演会・研究会の開催（年１～２回）
④ 広報誌（年１～２回）、研究誌（年１回）の発行

(11) 入館者の状況

（令和７年度）

展　覧　会　名		観覧者数/人
常　設　展・企　画　展		122,924
特別展	民藝 MINGEI― 美は暮らしのなかにある	3,153
	アニメ「鬼滅の刃」 柱展 ―そして無限城へ―	49,143
	芥見下々『呪術廻戦』展	43,297
	ディズニー・アニメーション・イマーシブ・エクスペリエンス	109,262
	魔法の歴史スコープ～見つめてみよう福岡の今～	4,647
	特 別 展　計	209,502
合　　計		332,426

※「民藝 MINGEI― 美は暮らしのなかにある」は、令和７年４月からの観覧者数（令和７年２月８日から開催）
※「魔法の歴史スコープ～見つめてみよう福岡の今～」は、令和８年３月までの観覧者数（令和８年４月 12 日まで開催）

９ 埋蔵文化財センター



○所 在 地	博多区井相田二丁目１番 94 号
○建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造３階建(一部２階)
○延床面積	10,713 ㎡
○設置年月日	昭和 57 年２月 22 日
○主要施設	展示室（第１・第２・第３）、研修室、図書室、資料閲覧室、収蔵庫・特別収蔵庫・記録類収蔵庫、木器処理室・金属器処理室・光学機器室、資料整理室 月限収蔵庫(博多区月限一丁目 13 番 17 号)

福岡市埋蔵文化財センターは、市域から出土した遺物や調査記録類を一括収蔵・保管し、また科学的な保存処理を施すとともに、市民が郷土の歴史をより身近なものとして学ぶために、これらを広く公開・展示し、市民文化の向上に資するために設置されました。

(1) 展示施設

令和６年度から令和 10 年度にかけて、老朽化した建物内部の大規模改修工事を実施する計画です。工事に伴い、令和６年４月から展示室を閉鎖しています。

(2) 保存処理と調査研究

① 保存処理

令和７年度は木製品 167 点、金属製品やガラス製品など 143 点について科学的保存処理を行いました。

② 調査研究

調査研究成果を年報（第 44 号）にまとめ、650 部を発刊、公共団体や研究機関へ寄贈しました。

(3) 普及活動

郷土の歴史を遺跡や遺物を通して学び、文化財保護思想の育成を目的に下記の講座・展示を開催しました。

① 考古学講座・発掘調査速報講座

ア　７年度の考古学講座は「倭国と古代東アジア　交流と諸国興亡の時代」を年間テーマとして３回開催し、計 822 人が受講しました。

	講座名	開催日	受講者数
1	弥生時代抗争の背景の変化と高地性集落の東方波及－その多元的性格と役割の解明をめぐって－」	Ｒ７．７．12	288
2	「倭軍は百済・加耶連合軍とともに高句麗・新羅両軍といかに戦ったか－戦闘の実相を探る－」	Ｒ７．９．20	300
3	古代韓日交流史－韓半島諸国と倭国諸地域との「交流」と韓半島三国時代諸国の興亡－」	Ｒ７．12．20	234

イ　令和７年度における市内の発掘調査の報告である発掘調査速報講座は計 139 人が受講しました。

	講座名	開催日	受講者数
1	発掘調査速報講座	Ｒ８．３．14	139

② 館外展示

当センターでは、出土品の活用の一環として、地域学校等の身近なところで出土品と接する機会を積極的に設け、市民の文化財保護に対する理解が深まるように努めています。

(4) 教育活動

① 出前授業

出前授業は福岡市内から出土した豊富な歴史遺産を収蔵庫に眠らせたまま後世に伝えるのではなく、新たな資料活用法として出土品を学校へ持ち込み、文化財専門職(センター職員)が授業を行うものです。

「ふるさと福岡」を誇りに思う子供たちを育てることを目的に、授業は①校区内遺跡からの出土品に直接触れて歴史を身近に感じること、②大昔の生活体験を行い歴史認識を深めること、の２本の柱から構成されています。

令和７年度は、５月から 10 月にかけて、22 校の小学校で計 64 回の授業を行い、1,870 人が学習体験を行いました。

・令和７年度　出前授業主要メニュー

授業メニュー	授業内容
出土品にさわろう！	本物の出土品に実際に触れて、当時の使い方を学ぶ
火起こしに挑戦！	舞い切り式の火起こしを体験し、火と人間の歴史を学ぶ

・令和７年度　出前授業実施状況

	学校数	授業回数	受講生徒数
市立小学校	22 校	64 回	1,870 人
市立中学校	0 校	0 回	0 人
特別支援学校（小学部）	0 校	0 回	0 人
特別支援学校（中学部）	0 校	0 回	0 人
合　　計	22 校	64 回	1,870 人



（出前授業風景）

(5) 資料の収蔵と活用

市域内の発掘調査による出土品や調査記録類を一定の収蔵方法によって整理・収蔵し、また必要なものについては科学的処理を行い、調査研究や貸出など各種の利用に役立てています。

なお、令和７年度は大規模改修工事に伴い、一部業務を制限しました。

① 収蔵

令和７年度は、博多遺跡群など 99 件の調査等の収蔵を行いました。その内訳は、出土遺物（コンテナ 4,324 箱）と記録類（写真 37,341 点、図面 5,190 枚等）等を本収蔵しました。これにより延べ 2,401 遺跡（調査）分について検索、公開できるようになりました。

② 資料の利用・活用

博物館などの展示資料や出版物の掲載資料、また小学校の補助教材として考古資料や写真の貸出し、さらには資料の撮影、閲覧申請への対応なども行っています。令和７年度は館内の大規模改修工事に伴い利用を一部制限しており、資料利用・活用は 144 件、5,560 点でした。

③ 図書の整備と利用

考古学関連書籍や全国の遺跡調査報告書を収蔵している図書室の蔵書数は令和７年度末で 113,826 冊を数えます。工事に伴い、令和６年６月から図書館の一般利用は休止しています。

(6) 入館者の状況　（令和７年度）

区　分	個　人（人）	団　体（人）	合　計（人）
学　生	1	0	1
一　般	446	0	446
合　計	447	0	447